

## 2024年1月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2023年8月31日

上場会社名 ピープル株式会社 上場取引所 東  
コード番号 7865 URL <https://www.people-kk.co.jp/>  
代表者（役職名）取締役兼代表執行役（氏名）桐淵真人  
問合せ先責任者（役職名）執行役（氏名）飛田留美子（TEL）03-3862-2768  
四半期報告書提出予定日 2023年9月1日 配当支払開始予定日 —  
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
四半期決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満四捨五入）

## 1. 2024年1月期第2四半期の業績（2023年1月21日～2023年7月20日）

## （1）経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年1月期第2四半期	2,394	△41.9	90	△77.8	97	△75.6	67	△75.8
2023年1月期第2四半期	4,120	127.6	406	1,801.6	398	2,362.1	276	2,472.5

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年1月期第2四半期	15.28	—
2023年1月期第2四半期	63.13	—

## （2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年1月期第2四半期	2,609	2,155	82.6	492.57
2023年1月期	3,014	2,329	77.3	532.35

（参考）自己資本 2024年1月期第2四半期 2,155百万円 2023年1月期 2,329百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年1月期	—	0.00	—	58.00	58.00
2024年1月期	—	0.00	—	—	—
2024年1月期（予想）	—	—	—	—	—

（注）2024年1月期の配当につきましては、通期業績見通しと連動して勘案する方針でおりますため、年末商戦状況を見極めた上で期末配当予想を発表させていただきます。

## 3. 2024年1月期の業績予想（2023年1月21日～2024年1月20日）

2024年1月期第3四半期累計期間業績予想（2023年1月21日～2023年10月20日）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第3四半期（累計）	4,320	△31.5	245	△59.5	261	△56.1	180	△56.4	41.23

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

（注）当社の通期業績は、年末商戦期間（10～12月）の業績に大きく左右されます。本来通期業績予想を掲げるべきですが、このような玩具市場の特性に鑑み、直近で見通せる次期四半期の予想を掲げさせていただきます。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2024年1月期2Q	4,437,500株	2023年1月期	4,437,500株
------------	------------	----------	------------

② 期末自己株式数

2024年1月期2Q	63,352株	2023年1月期	63,352株
------------	---------	----------	---------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

2024年1月期2Q	4,374,148株	2023年1月期2Q	4,374,201株
------------	------------	------------	------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	6
【第2四半期累計期間】	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
【第2四半期累計期間】	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8
3. 補足情報	9
カテゴリー別販売の状況	9
① 第2四半期累計期間売上高	9
② 新発売商品及び主なりニューアル商品	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間における当社をとりまく環境は、米国においては、景気減速基調自体には変わりはないものの、個人消費を中心に内需の底堅さが保たれ、引き続き緩やかな減速にとどまっている様子です。

当社の米国向け輸出売上においては、「Magna-Tiles」シリーズは、一定の人気を保ちつつも高額セット品よりも手頃な価格のセット品が主オーダーとなって推移し、前期の流通の思惑による特出した出荷増の期間に対しては大きく減少となったものの、前々期までの状況と比較して増加水準となっております。

一方、日本国内経済の環境は、コロナ禍の終息に向けた動きが強まる中で飲食やレジャーなどサービスへの支出は増加したものの、個人消費は物価高の影響を受け家計の節約志向が強まる傾向にあり、個人消費の回復の遅れが玩具市場全体へも影響している様子が窺えます。

このような環境の中、国内販売では市場全体の低迷の影響を受けつつも、第1四半期後半に実施した値上げ措置により僅かながら売上総利益率が改善傾向に向かいつつあります。また、乳児知育玩具の「ピタゴラス」シリーズでは前期発売した「ピタゴラスボールコースター」や「ボールコースターサウンド」で新たな消費者層も捉え、当カテゴリーが主力となって国内販売の全体を支えたことで、自転車事業の終了により遊具乗り物カテゴリーが大幅な売上減少となりながらも、当第2四半期累計期間は国内販売売上高は前年同期間を2割程の減少に抑えることができました。

経費では、研究開発費は新事業開発のための本格的な投資支出は下半期以降になることで当第2四半期段階では微増ですが、国内出荷の減少に伴う運賃の減少等で、経費全体で前年同期間比4.3%減となりました。

営業外収益では、前期発生した自転車リコールに伴う回収関連費用の保険補填が9百万あり、利益加算となりました。

以上の結果、当第2四半期累計期間の経営成績は、売上高23億94百万円（前年同期間比41.9%減）、営業利益90百万円（前年同期間比77.8%減）、経常利益は97百万円（前年同期間比75.6%減）、四半期純利益は67百万円（前年同期間比75.8%減）となりました。

#### (自転車事業の譲渡)

第1四半期決算短信にて当社自転車事業の終了をお知らせしておりますが、当事業につきましては、当社独自開発による幼児用自転車の終了を惜しまれる声も多くいただき、数社より事業引継ぎのお申し出を受けました。各社と協議の末、今後も当ブランドの信頼性を高めてくださることを確信し、かねてより自転車販売先として取引のある株式会社トップ（本社：東京都新宿区）へ2023年10月2日をもちまして、製造販売権を譲渡する運びとなり、契約締結に向け進行しております。

#### (中期的な方針)

前期通期報告にて説明いたしましたとおり、近年の外部環境の急激な変化により、当社業績は収益性が著しく悪化する状況に直面しています。値上げなどの止血対策を継続的に行っているものの、根本的な収益性の改善には、収益性の高い新商品をヒットさせることが必要だと考えています。

当社の強みを最大限に活かせるビジネスモデルとして、前期に掲げた「子どもの好奇心が、はじける瞬間をつくりたい」というパーパスに基づく、新商品開発に、中期的な視点で投資を集中していきます。

(パーパス制定後の企業活動の進捗)

まず、パーパスから遠く、かつ将来的な利益成長が当社の力では難しいと判断したカテゴリーを手放していく決断をしました。まずは自転車シリーズ(遊具・乗り物カテゴリー)の製造販売終了の告知をいたしました。空いたリソースは、新事業開発に充てていきます。

新事業開発促進策として、企画コンペの定期開催を発足しました。また企画開発チームのスムーズな進行のためにファンドチーム等のサポート体制を整えた結果、2025年のローンチに向けて複数のプロジェクトが進行しています。

(前期より継続活動)

前期、企業ブランド認知促進のため、広報チームを発足しました。「こどもSDGs」の活動がメディアの目に留まり、複数メディアに掲載されました。当期もSNSの活用やメディアへの継続的な広報活動を実施してまいります。

また、2023年4月13日に開催しました当社定時株主総会において、お子さま・お孫さま連れでの株主様ご参加を促し、「子どもまんなか株主総会」の第1回目を開催いたしました。

その一部様子がこちらからご覧いただけます。(掲載記事2種)

PR TIMES STORY <https://prtimes.jp/story/detail/qb6ovdu0ykB>

X (旧Twitter) [https://twitter.com/PRTIMES\\_TV/status/1648884197648478209](https://twitter.com/PRTIMES_TV/status/1648884197648478209)

(カテゴリー別の概況)

当第2四半期累計期間の各カテゴリー別売上高およびリニューアル発売品につきましては、9ページをご参照ください。

## (2) 財政状態に関する説明

(資産、負債及び純資産の状況)

(資産)

当第2四半期会計期間末における資産合計は、前事業年度末から4億4百万円減少の26億9百万円となりました。資産の部では、流動資産が主に受取手形及び売掛金の減少等により、前事業年度末から3億83百万円減少の23億3百万円となり、固定資産では、主に有形固定資産の減少等により、前事業年度末から21百万円減少の3億7百万円となりました。

(負債)

負債では、流動負債で主に買掛金の増加の一方、未払費用、未払法人税等の減少により、負債合計で前事業年度末から2億30百万円減少し、4億55百万円となりました。

(純資産)

純資産合計は、四半期純利益計上の一方、配当支払等により、前事業年度末より1億74百万円減少し、21億55百万円となり、結果、自己資本比率は82.6%となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物は、前事業年度末より2億59百万円増加し15億72百万円となりました。主な要因は次の通りです。

営業活動によるキャッシュ・フローは、税引前四半期純利益の計上の他、主に当四半期末商品買い付けに伴う仕入債務の増加、棚卸資産及び前渡金の減少、法人税等の支払等の結果、5億30百万円の収入となりました(前年同四半期は5億24百万円の収入)。

投資活動によるキャッシュ・フローは、主に金型等固定資産の取得により7百万円の支出となりました(前年同四半期は96百万円の支出)。

財務活動によるキャッシュ・フローは、主に配当金の支払により2億54百万円の支出となりました(前年同四半期は3億40百万円の支出)。

### (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

#### (第3四半期累計期間 業績予測)

現在、2025年ローンチを目指した複数の新事業プロジェクトが進行しており、そちらにリソースを集中するため、パーパスから距離があり当社の力では将来的な利益成長が難しいと判断したカテゴリーを終了させるプロジェクトを進めております。

第1四半期決算短信においてもお知らせしました通り、第一弾の自転車事業に続き、25年継続してきたお人形「ぼぼちゃんシリーズ」を、2023年末をもって終了させる決断をいたしました。「抱き人形」カテゴリーはコロナ禍が始まった当時から一気にコモディティ化が加速し、市場規模は縮小する中で「維持する」ためのコストが増大していました。その中で、商品の選ばれ方は大人の表層的な好みに大きく左右されるようになり、「子供の好奇心」というテーマから遠ざかってしまったことから、当社にとって将来性が期待できないものと判断に至りました。シリーズ終了に際し、年末はフィナーレイベントを大々的に開催し、ご愛顧くださいました皆様に感謝の気持ちをお伝えしつつ、スムーズに店頭在庫を消化させていく予定でおります。

次第3四半期会計期間（2023年7月21日～2023年10月20日）国内販売の見通しは、これら2シリーズが在庫販売のみになることも売上に影響すると見て、第2四半期から引き続き下降傾向を予想しております。また、海外販売においては、「Magna-Tiles」シリーズは前期同時期には年末商戦に向けた流通の思惑による出荷が最大量となりましたが、当期は上半期に続き米国消費動向や競合品、その他様々な外部環境の様子を探りながらの出荷が続くものと見ており、現状では通期ならして前期の7割程の出荷量で進行する見通しは変わらないものと見ております。

以上のことから、第3四半期累計期間（2023年1月21日～2023年10月20日）は、売上高43億200万円（前年同期間比31.5%減）、営業利益2億4500万円（前年同期間比59.5%減）、四半期純利益1億8000万円（前年同期間比56.4%減）と予想しております。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年1月20日)	当第2四半期会計期間 (2023年7月20日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,313,219	1,572,397
受取手形及び売掛金	396,315	186,844
商品	664,341	494,113
原材料	528	2,588
その他	312,924	47,698
貸倒引当金	△1,356	△1,047
流動資産合計	2,685,971	2,302,592
固定資産		
有形固定資産	62,299	42,749
無形固定資産	25,741	22,163
投資その他の資産	239,532	241,685
固定資産合計	327,572	306,598
資産合計	3,013,543	2,609,191
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	70,601	185,414
未払法人税等	103,519	20,798
その他	510,861	248,418
流動負債合計	684,981	454,629
負債合計	684,981	454,629
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	238,800	238,800
資本剰余金	162,705	162,705
利益剰余金	1,878,617	1,691,758
自己株式	△34,362	△34,362
株主資本合計	2,245,760	2,058,901
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	82,802	95,660
評価・換算差額等合計	82,802	95,660
純資産合計	2,328,562	2,154,561
負債純資産合計	3,013,543	2,609,191

(2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2022年1月21日 至 2022年7月20日)	当第2四半期累計期間 (自 2023年1月21日 至 2023年7月20日)
売上高	4,120,434	2,394,309
売上原価	3,108,735	1,724,347
売上総利益	1,011,699	669,962
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費	71,250	66,251
販売促進費	41,513	37,201
運賃	84,144	65,342
役員報酬	34,903	34,903
給料及び手当	74,577	70,951
退職給付費用	8,372	8,611
支払手数料	75,864	69,527
研究開発費	107,975	117,115
その他	106,916	109,823
販売費及び一般管理費合計	605,514	579,724
営業利益	406,185	90,238
営業外収益		
受取利息	46	56
受取配当金	2,933	2,792
受取保険金	-	8,961
その他	285	172
営業外収益合計	3,264	11,981
営業外費用		
為替差損	11,300	5,219
その他	6	-
営業外費用合計	11,307	5,219
経常利益	398,142	96,999
税引前四半期純利益	398,142	96,999
法人税、住民税及び事業税	121,750	19,516
法人税等調整額	260	10,641
法人税等合計	122,010	30,157
四半期純利益	276,132	66,842



(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2022年1月21日 至 2022年7月20日)	当第2四半期累計期間 (自 2023年1月21日 至 2023年7月20日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益	398,142	96,999
減価償却費	63,407	30,601
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△205	△309
受取利息及び受取配当金	△2,979	△2,848
受取保険金	-	△8,961
為替差損益 (△は益)	276	9,364
売上債権の増減額 (△は増加)	119,340	209,470
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△291,509	168,169
前渡金の増減額 (△は増加)	133,408	226,560
未収消費税等の増減額 (△は増加)	△29,790	34,342
未払消費税等の増減額 (△は減少)	-	10,611
仕入債務の増減額 (△は減少)	256,005	114,813
前受金の増減額 (△は減少)	△45,011	△207,173
その他	64,689	△64,915
小計	665,774	616,723
利息及び配当金の受取額	2,979	2,848
保険金の受取額	-	8,961
法人税等の支払額	△144,591	△98,709
営業活動によるキャッシュ・フロー	524,163	529,822
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△95,634	△5,971
無形固定資産の取得による支出	-	△970
投資活動によるキャッシュ・フロー	△95,634	△6,941
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
自己株式の取得による支出	△95	-
配当金の支払額	△339,466	△254,339
その他	△43	△78
財務活動によるキャッシュ・フロー	△339,604	△254,418
現金及び現金同等物に係る換算差額	△276	△9,364
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	88,648	259,099
現金及び現金同等物の期首残高	1,304,630	1,313,103
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,393,278	1,572,202

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

当社は、玩具及び自転車等乗り物類の企画・販売を事業とする単一セグメントであり重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。

### 3. 補足情報

カテゴリ別販売の状況

#### ① 第2四半期累計期間売上高

(単位 千円)

カテゴリ名	2023年1月期 第2四半期 (自 2022年1月21日 至 2022年7月20日)	2024年1月期 第2四半期 (自 2023年1月21日 至 2023年7月20日)	前年同期比(%)
乳児・知育玩具	604,466	554,244	91.7
ドール・メイキング玩具	112,997	73,815	65.3
遊具・乗り物	273,485	122,300	44.7
その他(育児・家具)	86,173	68,409	79.4
海外販売	3,043,313	1,575,541	51.8
合計	4,120,434	2,394,309	58.1

#### ② 新発売商品及び主なりニューアル商品

カテゴリ名	商品名	標準小売価格 (税込)
乳児・知育玩具	「やりたい放題ビッグ版リアル+」	¥7,920
	「やりたい放題セレクト」	¥5,720
	「やりたい放題スマート本」	¥6,600
	「指先の知育オールスター」	¥3,960
	「指先の知育小さいもの大集合」	¥1,870
	「指先の知育集中コースター」	¥1,870
	「指先の知育フタの中身はなんだろう？」	¥1,760
	「知脳リモコン」	¥2,178
	「iTフォン」	¥1,870
	「五感刺激キー」	¥1,650
	「なめられ太郎五代目」	¥880
	「追いかけてこしましょ」	¥2,398
	「ピタゴラスBASIC 1歳の知育ピタゴラス」	¥4,950
	「ピタゴラスBASIC 知育いっぱい! どうぶつえん」	¥6,600
「ピタゴラスBASIC 知育いっぱい! ボールコースター」	¥4,400	
ドール・メイキング玩具	「ねじハピ キャッスルデザイナーDIYセット」	¥6,600